

Homeless Garden Project は「食」と「農」が抱える矛盾をどう解決しているのか ——カリフォルニア州サンタクルーズのオーガニックの事例から——

立教大学大学院 浅岡みどり

1 目的

本報告の目的はカリフォルニア州サンタクルーズのオーガニック（有機農業）の試みにおいて、食の公正が社会の中で実現されているか／いないかを明らかにすることである。食の公正（Food justice）とは、フードシステムの中にある不平等に根ざした人種格差、搾取などに対する闘争を意味し、現在アメリカでは環境や経済分野に及び、幅広く論じられている（Alkon and Guthman 2017）。

歴史的に移民労働者を受け入れてきたカリフォルニアでは、消費者と生産者の間に労働者の存在があり、「食」と「農」の間の矛盾を一手に引き受けている。すなわち消費者が産業化した安価で美味しいオーガニック「食」を求めれば、それを支える「農」の労働者は低賃金で過酷な農業労働を強いられるという非対称な構造が生まれている。これを是正するには周縁化された労働者に、生活できるだけの正当な賃金と、新鮮で健康的な食を得る権利（Food sovereignty）を保障する必要がある。本報告では、この2つの権利を中心に食の公正の実現がなされ、社会が「食」と「農」の矛盾を乗り越えることができるのかをみていきたい。

一方、日本において「食」と「農」は、しばしば消費者と生産者の関係で論じられ、労働に関わる構造的問題についてほとんど言及されてこなかった。農家の高齢化に伴い、今後外国人労働者に頼ることが予想される日本の農業分野で、労働者問題は喫緊の課題となっている。そこで周縁化された労働者問題に取り組んできたカリフォルニアの Homeless Garden Project の事例を取り上げ、食の公正の可能性を探る。

2 方法

報告者は、今までカリフォルニア州サンタクルーズのオーガニックについての調査を行ってきた。本報告は2017年2月と2018年4月に実施した調査データを中心として、Homeless Garden Project に関わる人々へのインタビューと参与観察を基に分析を行う。農場で働くホームレスとボランティア、消費者、寄付をする支援者など多様な人々の関係をみていく。

3 結果・結論

Homeless Garden Project では、ホームレスは農業労働者として社会に位置づく。更に労働したら誰でも昼食が配給され、畑の農産物を持ち帰ることができる。また労働者は CSA（Community Supported Agriculture）の活用によって市場の価格に変動されずに収益が得られ、夏期には農作業、冬期には収穫物で商品をつくり販売でき、年間就業が可能になっている。これらのことから、Homeless Garden Project では「食」と「農」が抱える矛盾を CSA と地域の人々の間で解消し、ホームレスの食の公正が実現されてきたことが明らかになった。しかしながらこの事例は、経済的な面において配給や寄付によって成り立っていることから、必ずしも一般化できるモデルとはいえず、日本の状況に応用するためには、さらなる検討が必要である。

文献

Alkon, Alison H. and Guthman, Julie, ed., 2017, *The New Food Activism: Opposition, Cooperation, and Collective Action*, Oakland, California: University of California Press.